

EM 活用による環境浄化 ～協働のまちづくり推進事業～

自治体情報

人口 15,741 人

標準財政規模 3,706,705 千円

担当課 青森県 板柳町 生涯学習課(環境関係)・経済課(農業関係)

電話番号 0172-72-1800

ホームページ <http://www.town.itayanagi.aomori.jp/>

事業期間 平成 20 年度から平成 21 年度まで

参考とした施策

関係施策分類

施策の概要

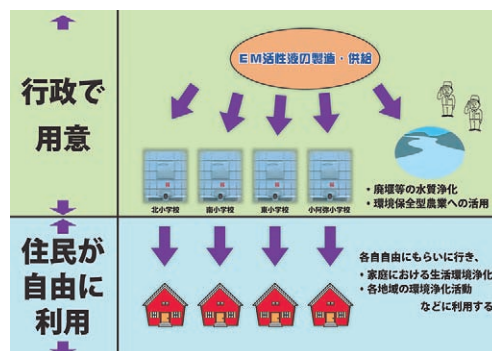
1 取り組みに至る背景

当町では、基幹産業のりんご栽培を主とする農業の振興を図るために、EM（有用微生物群）を活用した農業の可能性について平成 13 年度から調査研究を行ってきた。その結果、EM 農法による農産物は非常に高品質であること、また、EM は地域の環境浄化にも絶大な効果があることを確信した。そこで、これまで試験的に行ってきた本事業を官民協働で全町的に行うこととした。

2 事業内容（目的・目標・方策）

事業の目的は、農業の振興と地域の環境浄化である。

EM の活用で不可欠な EM 活性液は、種菌を培養することで千倍以上に増やすことができるが、全町的に使うためには大量に培養する装置と保管するタンクが必要である。そこで、行政が EM を培養し、町民がいつでも使用できる体制をとった。設備方法としては、町内の中心部に培養装置を設置し培養し、培養したものを入れた保管タンクを各地区の小学校 4 校へ配置



し、地域住民が利用しやすい体制とした。同時に、行政においても「EM 活用庁内推進体制」を確立し、目的達成のため各分野で積極的に EM を活用していくことにした。

3 施策の開始前に想定した事業効果

EM は天然の生き物なので、使いすぎても害になることもなく、使えば使うほどその効果が明確になる。官民協働体制により全町的に EM を活用することで、

- ① EM 農法による安心安全で高品質な農産物の生産
- ② 町内の環境浄化
- ③ 各家庭の生活環境浄化
- ④ 住民の社会参画意識の向上
- ⑤ 環境学習による情操教育の推進

などの事業効果が期待された。

4 導入にあたり工夫・苦労した点、課題、対処法など

EM タンクの設置場所を検討した際に、町民の方が利用しやすい位置で、なおかつ防犯上、安全上に配慮した箇所を選定するのに時間を要した。また、EM についてもっと理解を深めてもらい、今まで以上に利用者を増やすためには、今後も EM についてさらに周知していく必要がある。

5 現在の成果・実績、今後の展開など

行政がEM 活性液を製造し、住民が無料でEM を使用できる体制づくりについては、町広報紙でのEM 特集や町内回覧板、各種EM 講習会などで事前に周知していたので、事業開始直後から多くの住民がもらいにきており、問い合わせも数多くあった。

住民がいつでもEM をもらいにきて、自由に使用できる環境を整えた結果、以前からEM を使用している人が、EM を使ったことがない近所の人を誘ってもらいにくるようになり、各家庭でのEM の使用のほか、地域のために自主的にEM を散布するなどの環境美化活動も行うようになった。各町内会単位でも側溝や廃堰に散布するためにもらいにきている。また、住民にEM を提供するタンクの設置場所が各小学校ということもあり、各小学校で校内の清掃や花壇への散布、給食室グリストラップなどにも使用し効果を確認していた。

今回は、住民から何とかしてほしいと要望が多かった水路の悪臭などに対する効果も顕著であったことから、その有効性が周知され、地域住民の定期的な活動につながった。平成21年度に入ってから、昨年と同時期にくらべて使用者が増加している。

環境浄化のために今後も継続してEM を使用してもらえるように、また、EM 利用者が固定化しないようにも、町広報紙や町内回覧板などによる定期的、積極的な利用促進を図っていきたい。

町では、本事業を生かすためにも、今後も独自でEM による環境浄化とEM 農法の普及を推進し、環境にやさしい循環型農村づくりをめざす。

予算関連データ 板柳町

総額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
2,226千円		0千円	0千円	0千円	1,770千円	456千円
①～④の名称・所管等	名称				むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援助成事業財団法人むつ小川原地域・産業振興財団	
	所管					
	金額				1,770千円	
	補助率				4/5	